

会社概況

(2022年3月31日現在)

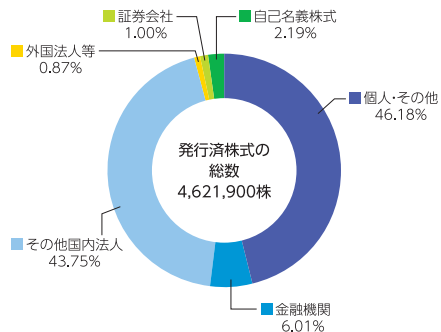
商号 三相電機株式会社
所在地 〒671-2288
兵庫県姫路市青山北一丁目1番1号
設立 1957年(昭和32年)10月11日
資本金 893,684,600円
従業員数 564名(連結)
事業内容 小型モータおよび小型電動ポンプの
製造・販売、金型の製造・販売

株式の状況

(2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	18,000,000株
発行済株式の総数	4,621,900株
単元株式数	100株
株主数	741名

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
そのほか必要があるときは、あらかじめ
公告して定めます。

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】
証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座をご利用がない株主様は、下記電話照会先までご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所

大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

(0120)782-031

(URL)

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>
当社ホームページに掲載いたします。

上場証券取引所

東京証券取引所

証券コード

6518

株主のみなさまへ

第65期 株主通信

2021年4月1日～2022年3月31日



代表取締役社長 黒田直樹

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに2021年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の営業の概況につきましてご報告申し上げます。

今後とも変わらないご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2022年6月

営業の概況

業績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、設備投資や企業収益には持ち直しの兆しが見られるものの、2021年末からの新型コロナウイルス「オミクロン株」の感染急拡大にともない、まん延防止等重点措置の再発出による行動制限が個人消費の下押し圧力となり、景況感は悪化してまいりました。また、ロシアのウクライナ侵攻にともなう資源価格の更なる高騰や安定調達への懸念は高まり、先行き不透明感の強い状況が続いております。

当社グループにおきましては、世界的な半導体供給不足の影響を受け、半導体製造装置は高水準の設備投資が続き、当社製品である半導体製造装置用ポンプの受注も引き続き堅調に推移いたしました。

また、工作機械業界の受注は内需・外需ともに増加しており、産業機械用モータでも海外経済の回復にともなう設備輸出の増加と、製造業の人手不足を背景とする省力化投資に加え、生産性向上につながる設備投資意欲が根強く、工作機械業界からのモータ受注も堅調に推移いたしました。

中国経済は、欧米やアジア向け輸出の増加から好調を維持したものの、電力不足による供給制限やゼロコロナ政策を背景に、経済成長率の下振れリスクは高まりました。

そうした中、政府の経済対策を受け民間企業の設備投資意欲は高く、経済活動は引き続き拡大基調が続いており、当社製品の空調用モータの受注も堅調に推移いたしました。

一方、部材の需給ひっ迫や資源価格の高値推移が続き、材料コストが上昇する中、部材の安定調達に努めるとともに、生産拠点の再編を図り設備稼働率と労働生産性を高め、更に間接費用の削減を進めるなど利益確保に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は170億98百万円（前期比132.3%）となりました。

営業利益は8億6百万円（前期比209.4%）、経常利益は9億39百万円（前期比160.9%）となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は8億84百万円（前期比219.8%）となりました。

今後の取り組み

今後の取り組みといたしまして、日本経済はオミクロン株の重症化リスクが小さいこともあり、個人消費を中心に回復基調が期待できますが、消費者物価の上昇による消費者マインドの悪化に加え、ウクライナ情勢の行方次第で、更なる資源価格の高騰や高止まりが見込まれ、景気下振れリスクの高まりは続くものと思われまます。

当社グループにおきましては、半導体市場が持続的な成長を続けており、今後もデジタルトランスフォーメーション（DX）により多くの産業領域で効率化に向けた取り組みが進むと予想され、データセンター向け半導体の需要は増加が見込まれます。また、自動運転の実現に向けて半導体搭載数が増加するなど、半導体需要の拡大が続き、半導体製造装置の需要も右肩上がりで見込まれると期待されます。これらの影響を受け半導体製造装置用ポンプの受注も更に増加が見込まれます。

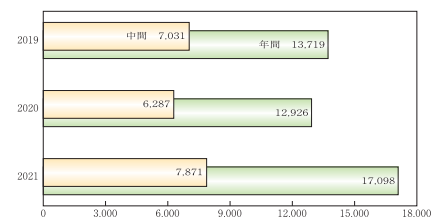
このような環境の中で、原材料や部材の安定調達に向けた取り組みを進める一方、原材料や資源価格高騰の影響は大きく、製品への価格転嫁をお願いするとともに、生産コストの削減に向けた取り組みを進めてまいります。

併せて、新たな分野で使用される製品開発を進めるとともに、引き続きユニット製品の市場拡大に注力し、顧客満足度の高いサービスを提供していくことに最善を尽くしてまいります。

連結業績の概要

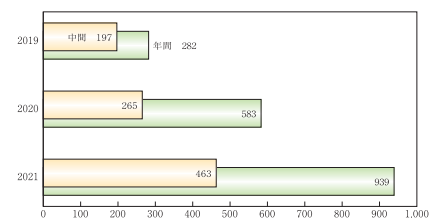
売上高

（単位：百万円）



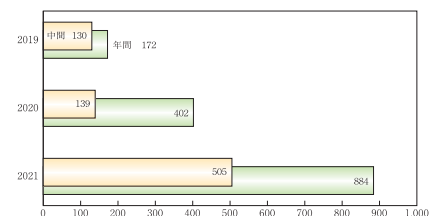
経常利益

（単位：百万円）



親会社株主に帰属する当期純利益

（単位：百万円）



要約連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	(2022年3月31日現在)
資産の部	
流動資産	11,164
固定資産	6,515
有形固定資産	4,640
無形固定資産	101
投資その他の資産	1,773
資産合計	17,679
負債の部	
流動負債	5,170
固定負債	2,139
負債合計	7,310
純資産の部	
株主資本	9,927
資本金	893
資本剰余金	1,847
利益剰余金	7,265
自己株式	△79
その他の包括利益累計額	441
純資産合計	10,369
負債純資産合計	17,679

要約連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
売上高	17,098
売上原価	13,915
売上総利益	3,183
販売費及び一般管理費	2,376
営業利益	806
営業外収益	170
営業外費用	37
経常利益	939
特別利益	125
特別損失	7
税金等調整前当期純利益	1,056
法人税、住民税及び事業税	201
法人税等調整額	△28
親会社株主に帰属する当期純利益	884